

発言要旨 松本市農業の課題解決プラットフォーム 第3回コア会議

※本文中に頻出する用語について

「テーマ①」…新しい農業の発信地・松本の売込み

「テーマ②」…個性を生かした中山間地の再生・活用

「部会①-1」…荒廃農地活用部会（仮称）

「部会①-2」…アグリツーリズム導入部会（仮称）

「部会①-3」…農業DX導入部会（仮称）

「部会②」…中山間地活用部会（仮称）

【柳澤氏】今回の会議では事務局で用意していただいた「検討部会の設置に向けて（たたき台）」資料の内容に踏み込んで議論を進めていきたい。部会①-1、-2、-3、②-1については、横山氏と梶原氏、事務局との間である程度意見整合してまとめてきている。まずは取り上げている課題について、意見があれば伺いたい。

【柳澤氏】座長からあまり発言は控えたいが、個人的には部会①-1、-2、-3を同時並行的に進めていかなければならないのか疑問である。1回目のコア会議のときから、横山氏は新規就農者の獲得を取組みの背景としていた。そのような意味では部会①-1、-3は納得できるが、-2は毛色が違うと思う。松本の農業を対外的にPRしていくには有効な手段だと思うが、新規就農者を獲得する手段としては距離がある気がしている。

【横山氏】アグリツーリズムの案については、農未来のメンバーがマーケティングや観光に興味があり、それを応援したい。それが農業者の獲得に繋がるかという点、直接的にはどうかと思うが、考え方によっては観光がきっかけで松本に来たいと思う方もいると思う。それで収益化ができるようになれば、豊かな農業者の姿をアピールできる。そのような意味で、必ずしも関係がないというわけではない。

個人的に頭の中で分けている5つの基盤がある。収入、圃場、作業、育成、情報である。作業と情報はこの中でDXになる。圃場は荒廃地。6次産業は収入基盤に位置付けられる。観光資源を検討していくことは個人的に必要だと思う。

【柳澤氏】アグリツーリズムも大切なことだと思っているし、似たようなことは中山間地の活用の中でも成り立ち得る。しかし、テーマ①の目的は将来の担い手の確保であるので、直接繋がる活動からスタートしてみてもどうか。いくつか出てくる課題の中で優先順位つけてやっていくので、これを捨てていくことで

はなくて、先行事例をみながら残した課題に手を付けていくといいのではないか。

【三宅氏】私は並行して進めてもいいと思っている。例えば、部会①-2を進めることでマンパワーが割かれてしまうことが懸念v cされるか。

【長谷川課長】委員兼事務局という立場であるが、今回のコア会議も検討部会も初めての取組みなので、こちらとしてもどのように進めるべきか考えている。どれも大切なテーマであるが、取組みやすいところを先行させ、やり方を検証しながら他の課題をスタートさせるという、段階的な取り組み方であれば安心して進めることができる。どれをやってどれをやらないということではなくて、どれかを先行して動かすことはできないか。

【柳澤氏】実際に動いていくと、すべての部会に農政課が入ってくることになる。そうするとマンパワーの問題もあるのではないか。

【梶原氏】初めての取組みを3つ同時に動かしてどれも中途半端になるくらいなら、優先順位をつけて1つか2つを先行した方がよいと思う。テーマ的にはアグリツーリズムも大切なことである。

【横山氏】やり方が分からないのであれば、荒廃地部会が適切なやり方で進むかも分からないし、DX部会なら尚更である。むしろ、この中で一番取組みやすいのはアグリツーリズムだと思う。やったことないから1つずつという理屈も分かるが、3つ同時にやってはいけない理由が分からない。

【梶原氏】参加・運営する人の確保、会議室の確保、機材の確保等そういうことも含めて難しいということではないのか。

【長谷川課長】そういうことである。梶原氏がおっしゃったような、開催する側の条件が整っていないことが1つある。

【横山氏】動かす部会が2つならマンパワーが割けるということか。

【長谷川課長】個別にどの部会を動かすかの話をしているわけではない。事務局側からすると、4つの部会テーマがあり、一斉にスタートするのは難しいので、手の付けやすいところを議論していただき、そこから動かすことはできないか。

【横山氏】やりやすいテーマとは何か。我々は提案者として課題を提案したが、そ

の中でやりやすい、やりにくいがあるとすれば事務局側の都合として言っていたきたい。

【柳澤氏】事務局のマンパワー問題もあるが、テーマ①は担い手の確保が目的である。その目的には部会①-1と-3が直接的に繋がっていくのではないかと。それぞれの課題解決は長い取組みになると思うが、その点では部会①-2はすぐに取り組むべきものからは距離があるのではないかと。

おっしゃったように松本に訪れた人が農業をみて、松本に就農したいと思うという可能性を否定するわけではない。目の前にいる人をどう育てていくかということを考えていけば、部会①-2は時期をずらして着手するのがよいのではないかと。

【長谷川課長】部会①-1の名称で「荒廃農地活用」が前面に出てきているが、個人的にそうではないと思っている。今農業に参入しようとする人が困っていることは、農地の確保である。新規就農者にどのように農地を提供する仕組みを作るかということである。新規就農者に提供する農地の元になるのはリタイアする人の農地や遊休荒廃農地であるが、そのまま新規就農者に引き渡しても大変なので、ある程度地域で管理することや、あるいは樹園地を整備してそこへ新規就農者に入ってもらえるような仕組みを作ることがメインになるのではないかと。そこが新規就農の課題であるし、市としてもやってもらいたいところである。

【柳澤氏】そうすると「荒廃農地活用部会」という名称は考えないといけない。荒廃農地の活用は1つの手段であって、本来は新規就農者が就農しやすい環境を整えていくことである。そうすれば部会①-1の取組みも明確になっていく。

【梶原氏】法令等のソフト面も入ってくるということか。土地だけでなく住居もあり、就農の橋渡しをいかにスムーズにしていくかということ。

【横山氏】それに関しては、我々の松本太郎という組織で実践してきた内容である。今井版においては新規就農者が困らないようにしてきた。これを地域の特性に合わせてバージョンアップしていければと思う。そういう意味では、実践的なたたき台があるのでやりやすい。

そこで問題になるのは住居である。今井版として農地は腐るほどあるので農地確保はそこまで心配していない。しかし、居住に関しては何でも行政にお願いするのはよくないが、何とかならないかと思っている。空き家情報を今井出張所が発信してくれているが、それ以上のことは何もない。

【柳澤氏】そういうことも、この部会で行政と解決に向けて議論していければいいのではないか。部会①-1が半歩先に進んでいるのであれば、それをさらに進めて、他の地域にも応用していければよい。

なので、部会の名前はそれに合わせて変えていければいいと思うがどうか。そうすればイメージすることがクリアになると思う。

そう意味では、資料の中で協議する内容の例にもあるが、ここに羅列されている内容でほとんど網羅されているとみてもよいか。

【三宅氏】今井地区では新規就農をしたいと言われる方が多いという認識だが、松本全体では農業をやりたい方がどのくらいおられるのか把握しているか。ずばり、アグリツーリズムは観光というイメージが先行してしまう気がするが、松本で農業をしてもらいたい人を増やすためには、農業体験ツアーという形でのアグリツーリズムもあっていいのではないかと思ったがどうか。

【横山氏】そのとおりである。新たな農業者の獲得という意味では毛色が違うのかもしれないが、例えば、中山間地でアグリツーリズムも農業収入として成功している人がいればそれを目標にして来る人がいる。毎年うちに弟子が来るのは、私が魅力的なのではなくて、私の弟子が育って成功している人がいるから魅力になるという構図である。なので、そのモデルを作りたいのも1つある。

【柳澤氏】横山氏が対象にしているのは大規模に農業経営をやっていく人たちである。それとは別に、農業を小規模からやりたいという人もいる。

私のところにも昨年3名、今年に3名、空いた土地があれば米や野菜を作りたい人がいる。これは私のアプローチの仕方が他の方と異なっている。そのような人は農機具を持っているわけでもなく、農業をただやりたいという願望だけで来ているので、最初に家庭菜園からやらせよう。本当に米や野菜を作るのはどういうことを小さな規模でやらせよう。1年間やってみて、さらにできると思えば広めの土地を準備して、自分が食べる物と外販できるくらいの規模でやらせよう。そのときに収支計画もたて、農業経営を勉強せよ。さらに規模を大きくしたい人は、1から農業機械をレンタルしたり、購入してやっていくことも必要だと思う。それも将来の担い手の確保に繋がっていくと思っている。

先ほどアグリツーリズムの話が出たが、どうしても旅行代理店等の大規模な話になる。実際に担い手になりたい人は小さなところから始めてみて、その経験をもとに徐々に規模を大きくするというアプローチもあると考えている。

【横山氏】柳澤氏のおっしゃることで欠けていることは、県外者等の地域外の人である。地域の人であればそのプランはありだと思いが、外にアピールしていくことも必要である。外から移住してきて少しやらせよう程度では生活ができ

ない。若い担い手は1年1年が大切なので悠長なことを言っていられない。

【柳澤氏】それは農業で生計を立てていきたい人が対象になる話である。

【横山氏】週末農業、副業から本業へというスタイルであれば柳澤氏のおっしゃったプランでできると思う。どっちが良い悪いではなく、最初からしっかり農業に染まってもらうプランと分けて考える必要がある。

【長谷川課長】三宅先生のご質問に戻ると、松本市の新規就農者の獲得に繋がるような取組みは、県外からの新規就農者の獲得では、首都圏や関西圏で就農相談会をやっている。相談会に来る方は初めから長野県松本市でやってみたい方もいるし、色々ところで話を聞いてみて、やりたいことやりたい場所を選択する人もいる。そういう中で松本の農業を知ってもらう入り口として観光と結びつけるのは有効な手段だと思う。

それはこちらから出向いての取組みだが、逆に農業をやってみたい人を松本へ招いて、どのような農業をやっているか見てもらう取組みもやっている。具体的には山辺のぶどう、これから計画しているのは梓川のりんごで体験を交えながら知ってもらう。そこで気に入ってもらえれば松本に就農してもらうという取組みもしている。おかげさまで、毎年何組かは松本で就農していただくことができている。その中で課題となるのが、住む場所と農地の問題である。

【三宅氏】そのような就農相談会に参加されて、何人が相談に来て、何人が就農されているのか数字はすぐにわかると思うが、そこを底上げしていこうとなると、荒廃地活用の中に外部からの就農者を引き込むような取組みを入れてもいいのではないか。

【横山氏】今の就農の話は十数人規模であると思うが、農業者の平均年齢70歳の人数と規模感でいくと、十数人では味噌汁に塩1粒入れたような話である。その規模感に合わせられるスタイルを今から考えないといけない。色々なやり方での新規就農の獲得を視野に入れることが大切である。

【梶原氏】今議論しているのは何か。

【柳澤氏】テーマ①の3つの部会について同時に進めていくか、まずは数を絞って進めていくのかである。話の流れで今は部会①-2について話している。

【梶原氏】3つの部会のうち最初に動かす数を決めること、3つ同時に進めないのであればどれを残すのかということか。もしかしたら、部会①-2で検討する

アグリツーリズムを部会①-1に入れられるのではないかという話も含まれるということか。

【横山氏】私はそう思った。これを部会①-1の議題に入れて、新たな農業スタイルの構築部門を作り、観光を扱うのでいいのではないか。

【梶原氏】新規就農者側としては、行政からの支援はとても心強い。成功体験を見学するのは勉強になるので、部会①-2としてではなく、今は部会①-1の中に入れるのがいいのではないか。

【横山氏】3つのボリュームが100として2つにしたからといって60になるものではない。

【梶原氏】3つ部会を同時進行すると、短期間に何回も会議に出席しないといけない人が増えてくる。週1~2回のペースで会議があると難しいのではないか。会議の時間や頻度も含めて、試験的にやるのがよいのではないか。

【横山氏】全体の意見で決まればそれでやる。梶原氏がおっしゃったように部会①-1にアグリツーリズムを入れて、議論の中で分けた方がよいという話になればそれでもよい。ただ、部会①-2の毛色が違うのは明らかなので、なぜそれを部会①-1に入れるのか説明をしなければいけない。

【長谷川課長】今回やるものとやらないものを決めているわけではない。1つ踏み出してみるとすれば、どれかにしないかという話をしているつもりである。3つ課題を同時に進めることもやり方の1つになるかもしれないが、これから加わっていただく構成員の確保もあるので、まずはどれか1つを踏み出してみましようということである。そこでやらなかったから今後もやらないというわけではないということをご理解いただきたい。

【柳澤氏】部会①-2を-1に入れてはどうかという話が出ているが、メインはそういうことではない。要は農業を見学してみ、体験してみ、興味をもって就農に向かって進む人があればということ。部会①-2をやるとすれば、実際に行われている農業をみることで、農業に対する興味を喚起することがテーマになる。部会①-1は最初からやりたいという人が入ってくる話がテーマとなる。就農体験や就農相談会は農業を外に向けて発信するという意味で、どちらかといえば部会①-2の範疇になるのではないかと思う。

【梶原氏】部会①-3については何も議論がないが、とても重要だからやるという

ことでよいのか。

【柳澤氏】これは既に横山氏の組織で一部進み始めているということである。

【梶原氏】それでは部会①-3は決まりということでしょうか。あとは部会①-1と-2も同時にやるのか、片方にするのかという議論か。

【横山氏】私は今まで言ってきたとおりだが、事務局あつての話なので事務局ができないと言えればそれまでである。

【高野部長】3つの中でどれかをやめるということではない。検討部会ではできれば、課題解決で何か実現をしていきたい。例えば、地元をどう魅せるかという切り口で攻め込むのを部会①-2でやり、その上で商品化することになれば、その次に住居の確保等の課題に繋がっていく。住居の課題に繋がることが分かっているので、部会①-2がある程度まとまれば、次は一緒に構成員になるかどうかは別にして、そこから新規就農をどう持ってくるかというように、段階的に繋げながら進めるのがいいのではないかと思ったがいかがか。

【横山氏】部会①-2を先行するのは賛成である。

【高野部長】事務局のマンパワーもあるので、3つ同時にうまくできるか怯えている部分もある。まずは1つ動かすことでどの頻度ならできるかといったことも分かってくるので、それで始めさせていただいて、その間に他の部分も議論させていただきながら動かせればと思うがいかがか。

【柳澤氏】そうすると、高野部長のご意見はまずは部会①-2に着手して、部会①-1と-3も設定するが、実際に人とお金をつぎ込んで動かすというよりは中身を精査して、次の段階で取り組める準備をしていくという意味合いか。

【高野部長】個人的な意見ではあるがそういうことである。

【柳澤氏】それが最終的な目標の将来の担い手の確保に繋がっていかないと取組みが成功したとは言えない。

【高野部長】結局どれも関連するというのは最初の横山氏のご提案のとおりである。しかし、3つ同時に進めるという手もあるが、初めてなので議論がどう進んでどう実現するかという成功モデルもない。最初は様子を見ながらやっていけばいいと思う。

【横山氏】何のモデルもないので、我々提案者としては逆に工程表を作ってほしい。その枠組みの中でどう力を発揮するかというところが決められる。ルールがない状態でスタートしたので、私はよかれと思っているが、時間的な余裕もない中で焦りもある。行政の皆さんが動いてくれないと何も検討が進まないので、協調していきたいと思っている。

【高野部長】その会議自体をどのように運営していくかも含めてまずは1つやっていく。必要であれば並行して議論してもよい。

【柳澤氏】部会がスタートすれば、部会が主体的にやるということでよいのではないか。部会に責任者がいて中心になりながら、事務局の農政課にはその情報を伝え、あるいは農政課の誰かに参加していただき状況を把握するということがよいと思う。

これまでの話をまとめると、部会①-1、-2、-3はそれぞれ必要なものであるということは共通認識にあるということ。実際に動き出すとすると、現実的に部会①-1と-3は横山氏のところで動いてきている内容であるので、これはこれで松本太郎から枠を広げて進めていくにはどうするか検討していただくといい。具体的に人と予算をつけて動いていくのは部会①-2の内容ということでよいか。

【一同】異議なし。

【柳澤氏】それでは部会①-2を具体的なアクションとして4月からスタートしていくということよろしいか。

【高野部長】できれば3月からお願いしたい。

【長谷川課長】1つテーマを先行させて検討部会をしていくということでやればよい。

【柳澤氏】検討部会②-1もあるが、これについて梶原氏から補足はあるか。

【梶原氏】長谷川課長と同じ意見だが、部会の名称で「中山間地活用部会（仮称）」だとテーマが広すぎると感じている。部会①と同じようにするのであれば、これも協議する内容に即した名称にしたい。今後、部会①のように部会②を分割できる余地を残すために名称を変えていきたい。

【柳澤氏】学校給食を前面に出してもよいと思うが、最初は地域の食材のテーマとして検討していけると思う。今は給食からスタートして、実際にどのような食材がどのくらい要望されるか検討されていく中で、野菜だけでなく肉を放牧で賄えるのかといったことを今後考えていくことになるのではないかな。

【横山氏】結構な課題があり広がっていかざるを得ない。中山間地の中でも給食から荒廃地といった小テーマがあり、それぞれ専門性が違うため一緒には議論できないのではないかな。

【高野部長】地域食材、有機食材の出口は学校給食が題材としてあるので、食材を作る・使うだけではなく、それをどうコーディネートするのか議論になる。部会ではそれを議論していただいて、1つ課題解決に繋がればよいと思う。その次に繋げるにはどうするかというのは、広げる意味で部会の名前は（仮称）としていたつもりである。

【長谷川課長】取組みのテーマに即した分かりやすい名称がいいと思う。梶原氏のおっしゃるように検討の余地があるのではないかな。

【梶原氏】部会①と②のくつきり度が異なると感じている。部会の名前に重要性がないのであればよいが、例えば広報誌に載るタイミングがあったときに、見た人がイメージする内容と異なるとよくない。

【柳澤氏】大テーマとして「個性を生かした中山間地の再生・活用」がある。中山間地活用という名前になっているが、その中の1つとして学校給食のテーマを取り上げてみる。

【梶原氏】なので部会②-1の名前が例えば「学校給食」となるのはどうか。

【柳澤氏】その前提としては「個性を生かした中山間地の再生・活用」があるので、テーマが分かれて広がっていくにしてもそこから外れるのはよくない。なのでまずは給食についてやっていき、その中から例えば小動物の保護というテーマが出てくれば部会②-2として扱うのもよい。

【梶原氏】その拡大することの含みを持たせた「中山間地活用部会（仮称）」ということか。

【柳澤氏】それはテーマごとに変えてもらってもよいのではないかな。

【横山氏】学校給食というよりも食農というイメージがある。豊かなものを食べて子どもたちに豊かな人間性を育んでもらうというところで、アプローチとして食農食育があり、中山間地版として何ができるのかというイメージをしている。

【柳澤氏】プラットフォームを農業委員会から提案したときに、荒廃している中山間地を活用したいという意見があった。地産地消を目指して平野部で作る野菜を供給することもできるが、あえて中山間地で作ったもので賄えないか。そうすれば、荒廃している中山間地の利活用に繋がると思っている。

【長谷川課長】名称問題はもう一度考えたいと思うが、私のイメージは中山間地の問題は、農地の有効活用がこれまでテーマとしてあった。そこから中山間地ならではの特色ある農業のやり方、少量多品目の優良な農産物が生産されたりというものがある。それをどのようにして商品に繋げるかというときに、1つの出口として学校給食をクローズアップしてやったらという形で整理ができていると思っている。それに即した部会の名称を考えるのがよいと思っている。

【柳澤氏】そういう意味では部会①にかかる名前もこれまでの議論を踏まえた名称にしていきたい。

【梶原氏】もう1つ確認したいが、学校給食という話だと、別プロジェクトで波田給食センター、梓川給食センターで有機食材を取り入れてやっている。学校給食課や農政課の方も入っているので、その方たちも部会②に入れて提携していきたい。

【柳澤氏】松本市としてくくり直してみる、あるいは情報交換、人の交流もしてみるのはいかがでしょうか。

【高野部長】今おっしゃられた方々に入っていて、その中でこのくらいの規模でやったり品目として一部のものを、松本市全体ではどうするかというところに繋がってくる。

【梶原氏】現実問題、国の指針で有機農業の推進もあるし、学校給食で有機給食の割合を増やしていくというのがある。中山間地の不整形農地だけで有機食材を提供できるかという話になればたぶんできないと思う。もしそこまで話が広がれば、部会②からは離れていってしまうと思うが、せっかく関係者がいらっしやるので、最初の導入部分でその方の知見を取り入れながらしていきたいと思っている。

【柳澤氏】話がまとまってきた。あとは今後の進め方について意見をいただきたい。
この点については農政課で準備を進めていることはあるか。

【事務局】たたき台の右列に示した部会構成者（案）に示しているが、今日の結果を受けて動いていこうと思っていたので、まだ何もアプローチできていない。想定している組織を書き出しているが、このような方々にこれまでのプラットフォームの議論を説明して協力をお願いしていく。さらに、資料にも載せているが、一般募集ということで、内容によっては自発的に協力していただける方が現れるのがベストだと考えている。内容によっては一般募集をするかどうかとも考えないといけないと思っている。

【柳澤氏】先ほどの給食の話は一般という意味からは少しずれてくるが、既に先行している地域の協力を得るという意味では広く求めるのはいいのではないか。
あとは部会①-2をどうのように協議していくか整理していきたい。場合によっては、県内外からの見学を希望する人に農地を見せていただける農家の方を対象に募集をかけられるかもしれない。

【高野部長】そこも含めて横山氏と相談させていただきたい。

【横山氏】一般募集については少し違和感がある。大々的にテーマに興味のある人は皆さん来てくださいと言って来てもらうと、結構混乱する。色々な意見が飛び交うので怖いなども思う。地域の中で志を一緒にするところから始めていきたい。

【長谷川課長】ここでは単に一般募集としか書いていないが、検討部会で取り上げる課題がどれだけ整理されているかというところだと思う。そこに自分の持っている能力を発揮できる人が自発的に来てくれるといいなという思いで書かせていただいている。実際にやるかどうかは皆さんとご相談したい。

【横山氏】もちろん、色々な人の意見を聞きたいし、私自身も完成された考え方があるわけでもない。でもそれが急激に増えたりすると大変なので、気を付けながらということをお願いしたい。

【高野部長】私も最初から一般募集をやるのかはどうかと思っている。最初はステークホルダーとやっていき、必要なタイミングで募集する手もあるので、相談しながらやっていきたい。

【柳澤氏】三宅先生から今までの議論で意見はあるか。

【三宅氏】一般の方の意見を聞いてみたいが、横山氏のおっしゃるように方向性や考え方が食い違ってくる可能性があるので、例えばパブリックコメントを出す形でもよいと思う。あとは先行事例があればやりやすいところでやるのがよい。

【高野部長】手法としてはパブリックコメントもある。

【柳澤氏】広く一般の意見を聞くという意味でパブリックコメントもあると思う。

【横山氏】プラットフォームをやるにあたり、初めて松本市のホームページを開いてみたが、そうすると色々な検討部会がある。観光や移住関係の部会であったり、いきなりは難しいが時期を追ってリンクしていく方法もあるのではないか。

【柳澤氏】予定の15時になるが、予定していた意見交換はできたと思う。全体をとおして何かあればお願いしたい。

なければ、今日の議論を基に整理していただき、その内容から先行する部会①-2と②がスタートするように準備するということをお願いしたい。